

新建・寺子屋 (モダニズムの研究) 247 報告

近代建築を多角的に検討／モダニズム建築文献再読；
—藤森著『日本の近代建築』の分析—第 13 回

2017.11.15
話：三沢浩

- 寺子屋 247 は 6 人の参加で開催されました。
- 戦前、前川國男と渡辺仁は多くのコンペで覇を競い合っていました。今から見ると、新しい建築のあり方を切り開いた前川とそれまでの建築の要素を巧みに塩梅した渡辺という時代的対比も見えてきます。一方で、製図工としてキャリアをスタートした山口文象が、関東大震災復興橋のデザインを任されるなど、構造としてのデザインへの展開も積極的に見せてくるようになります。
- そうした中から、構造としてのRC造をそのままに表現した全面RC造打ち放しで、欧米のデザイン潮流を引き継ぐキュビズム的な建築、A. レーモンドの「霊南坂の自邸」が生み出されてきます。



渡辺仁「(有楽町)日劇」



山口文象「清洲橋」(関東大震災震災復興事業橋梁)

帝国ホテル・パース

新建・寺子屋(モダニズムの研究)247

近代建築を多角的に検討／モダニズム建築文献再読；
2017年11月15日(水) 話：三沢浩

—藤森著『日本の近代建築』の分析—第 13 回

1. 前回のスライドVIIへの補足

- 1) 村野藤吾と渡辺節の比較
- 2) 渡辺仁と前川國男のコンペくらべ
- 3) 山口文象の橋などのデザインの根拠
- 4) 吉田五十八のモダニズムとは何か

2. 今回のスライドVIIIの要点(藤森の強調点)

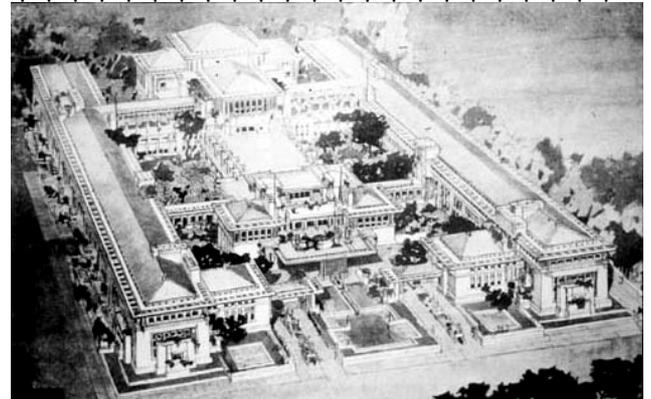
- 1) 初期モダニズムのデ・ステイル派の評価
- 2) レーモンドの「霊南坂の自邸」に至るまで
- 3) 特に、チェコ、ニューヨーク、タリアセンの頃
- 4) 「帝国ホテル」で何故、働くようになったか

3. ニューヨークから東京への経緯について

- 1) カス・ギルバートと会って、N.Y.行きをすすめられる
- 2) なぜタリアセンで働くようになったか
- 3) タリアセンで働いて得たこと(プレハブとプレイリー)
- 4) 「帝国ホテル」を含め、ライトの影響は如何？

4. 藤森のデ・ステイル派のとりあげ方

- 1) なぜ「霊南坂の自邸」を最高の評価に
- 2) これについては他の作品を比較しながら別の機会に
- 3) これに至るまでは F・L・ライトの影響が大きい
- 4) F・L・ライトがレーモンドを東京に連れてきた理由



次回 <寺子屋 248> ■近代建築を多角的に検討■モダニズム建築に関する著作再読
藤森照信著『日本の近代建築』の研究—第 14 回 話：三沢浩

2017年12月20日(第3水曜日定例) PM 7:15~

場所:新宿区水道町 2-8 長島ビル2階(江戸川橋駅神楽坂駅徒歩5分)

会費:400円

問合:大崎元 (有)建築工房匠屋 VED03705@nifty.com